

式 辞

「徹底して考え抜いた末に生まれる『独創性』と、最後までやりぬく『粘り』を持つこと。この両輪なくして、大きな夢を実現させることはできない。」

この言葉は、ノーベル物理学賞を受賞された中村修二さんの言葉です。

さきほどの証書授与で将来の姿や夢、そして感謝のことばを述べた皆さんの立派な姿を見て、これから先、何事にも粘り強く取り組み、自分の個性を伸ばすことで、みなさんは、それぞれの夢を実現する、と強く感じました。6年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

保護者のみなさま、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きく成長されたお子様の姿をご覧になって、感慨深い気持ちになられていることと思います。

特に5年生からの2年間は、感染症対策のため、臨時休業や分散登校、学校行事の中止・変更などでご心配やご不安を与えてしまいました。それにも関わらず、様々な場面でご理解とご協力をいただきましたこと、高い席からではございますが、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

さて、中村修二さんは、今から8年前の2014年に、赤崎勇さん、天野浩さんとともに、「青色LEDの発明が人類に恩恵を与えた」として、ノーベル物理学賞を受賞されました。

それは、今から48年前の1964年に赤崎さんが開発を始めました。しかし、思うような成果が出ないなか、1981年に弟子である天野浩さんに出会い研究が引き継がれます。そして、中村さんは、別のチームで研究を進めていて、青

色LEDを明るくすることに成功し、商品として世の中に広める基礎を築きあげたのです。

今やあたり前となった、スマートフォンや大型液晶テレビなどは、この発明があったからこそ実現できたのです。それだけではありません。少ない電気で明るく光る技術は、省エネを推進し地球環境を守ることにともながっているのです。

何十年も続けてきた研究と成果は、世界中のいろいろなところにつながり、多くの方々に恩恵を与えたのです。

彼らが達成した人に恩恵を与えることは、みなさんが決意表明で述べた夢やドリームマップに描いた夢にも当てはまります。

みなさんの描いている将来は、全世界の人々の将来でもあるのです。今あるこの社会が、多くの人たちの夢や目標を実現することでできあがっているのと同じように、将来の社会は、みなさんの夢がかなうことでできあがるのです。

これまで、様々な機会を通じて夢についてお話をしてきましたが、最後のお話は、「徹底して考え抜いた末に生まれる『独創性』と「粘り」についてです。

「独創性」とは、「他のものの真似をせずに、自分のオリジナルな考えで、独自のものを作り出す」ことを表しています。しかし、独創性を磨き上げるためには、多くの人たちから学ぶとともに、謙虚に周りの人たちの力を借りたり、助言をいただいたりすることがとても大切なのです。

独創性は、自分一人だけで作るのではなく、たくさんの人たちとのつながりの中から作り出していくのです。

次に「粘り」です。どんなことでも最初から簡単にできることばかりではありません。達成するためには、最後までやり抜かなければいけません。簡単にあきらめず、失敗は成功へつなげるためのステップに変えて、実現するまでトライし続ける気持ちが必要です。

そしてこの「独創性」と「粘り」は一人で磨き上げていけるものではないということです。わからないことを教えてもらったり、教えてあげたり、考えを共有したり、ぶつけ合ったり、ときには励ましあったりできる仲間がいることで、一人の時よりも何倍にも何十倍にも磨き上げることができるのです。

実現した夢がたくさんの人につながっていくように、夢を実現しようとするときもたくさんの人とつながることがとてもとても大切なのです。

これからのみなさんが、将来の夢や目標を実現するために、周りとのつながりを大切にしながら、日々の努力を積み重ねていかれることを願っています。

そして、そんな努力を続けるみなさんをいつまでも応援し続けたいと思います。

みなさんの夢が実現した未来の社会で、私も自分の力を発揮できる社会の一員であるように努力を続けていききたいと思います。ともに頑張っていきましょう。

そんな素敵な未来が来ることを願い、式辞といたします。

令和4年3月18日

大阪市立西三国小学校 校長 福井 淳也